

【美術館堆肥化計画】
公式ウェブページ



美術館

Museum
Composting
Project

堆肥化計画

2022

事業概要

美術館堆肥化計画2022成果展示

2023年2月4日(土)～4月16日(日)

【会場】青森県立美術館（地下1階／展示室OPQMLJ）
開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日＝毎月第2、第4月曜日を予定

【観覧料】一般510(410)円、高大生300(240)円、小中学生100(80)円
※()内20名以上の団体料金、心身に障がいのある方と付添者1名は無料。

【紹介作家や資料】アート・ユーザー・カンファレンス(アートコレクティブ*)、小田香(フィルムメーカー／アーティスト*)、田附勝(写真家*)、小坂圭二(彫刻家**)、斎藤義重(アーティスト**)、蓑虫山人資料(青森県立郷土館、弘前市立博物館、弘前大学、個人蔵による)、三沢市ゆかりの生活資料、六ヶ所村ゆかりの生活資料
*事業参加作家 **美術館コレクション作家

□主催：青森県立美術館
□協力：三沢市観光協会、新郷村ふるさと活性化公社、一般財団法人六ヶ所村文化振興公社
□企画担当：奥脇嵩大(青森県立美術館学芸員)

美術館堆肥化計画 とは

青森県立美術館が地域にとび出し、地域と協働することを通じて、ミュージアムの社会交流施設としての可能性をひらくアートプロジェクトです。事業を通してミュージアムに期待される働きを、土壌環境を整え作物の成長を支える「堆肥」になぞらえ、プロジェクト名を「美術館堆肥化計画」としました。本計画は地域ゆかりの施設や団体のご協力のもと、県立美術館の建築やデザインを紹介する PR 展示「旅するケンピ」と、現代アート作品の展示等を行う「耕すケンピ」を二本立てで行い、年度最後に県立美術館で「成果展示」を実施するというプロセスのもと行われます。

今年は県南地域で「歴史の堆肥化」を展開

2022 年は第二弾として県南地域（三沢市、六ヶ所村、新郷村）に出張し、10 月 29 日～12 月 11 日の期間で、三沢市歴史民俗資料館、斗南藩記念観光村内「開墾村」、六ヶ所村立郷土館、新郷村キリストの里伝承館といった施設との協働のもと県立美術館の活動の PR や、アーティスト三組（アート・ユーザー・カンファレンス、小田香、田附勝）による作品の制作・展示を「歴史」「記憶」「縄文」を手がかりに行ったほか、幕末明治に活躍した観光家・蓑虫山人(1836-1900)が、県内三沢ゆかりの要人・広沢安任らと構想したとされる幻のミュージアム「陸奥庵」をヒントに、外部講師らとともにこれからの時代の「ミュージアム」を考えるオンライン勉強会「蓑虫山人とみる夢」を開催しました。総じて「歴史の堆肥化」を手がかりに地域施設と協働しながら地域と美術館の魅力を発掘・発信する事業となりました。

成果展示について

本事業成果展示をコレクション展内特別展示として開催します。展示は以下の要素で構成されます。

1. 参加アーティスト 3 名により地域に取材し制作された作品展開
2. 地域ゆかりの生活資料とコレクション作品のコラボレーション
3. オンライン勉強会「蓑虫山人とみる夢」にちなみ、県下に残る蓑虫山人作品や彼の県人との交流などを紹介し、蓑虫が県下で夢見たミュージアム的な場所「陸奥庵」を検討する

本成果展示においては現代アート作品や美術館コレクション作品とともに、地域ゆかりの生活資料を展示します。美術館が作品を歴史化するべく切り捨ててきた曖昧性や親密さといった要素を拾い集め、それらをあえて軸とし構成される本展は、既存の芸術のあり方を足がかりに、人が生きることを足元から更新させるような「術」が生まれる場所を展示室に展開します。それは地域の過去を肥やしに未来を耕す役割を美術館に実装させる、いうなれば追肥の機会となることでしょう。

成果展示の構成（予定）

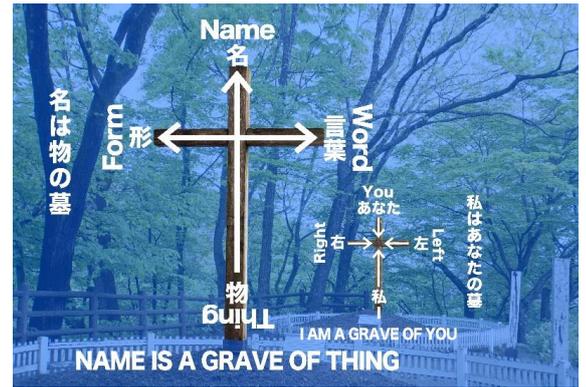
【展示室0-1】アート・ユーザー・カンファレンス：‘そこ’は墓でなくもない
アート・ユーザー・カンファレンスが県内で取り組むプロジェクト「ジェネラル・ミュージアム | 墓」の一環として、彼らが新郷村「キリストとその弟イスキリの墓」伝承のリサーチをもとに想起した「魂の民主化（複数化）」を手がかりに、新郷村での経験や美術館のインフラを組み合せ、展示室に墓でなくもない場所一生と死の中間状態を展開する。「美術館(ムゼウム)と霊廟(マウゾレウム)を結び付けているのは、その発音上の類似だけではない」(アドルノ)。

紹介する展開：

アート・ユーザー・カンファレンス「ジェネラル・ミュージアム | 墓」

アート・ユーザー・カンファレンス An Art User Conference

2014年設立。創作や研究、キュレーションやマネジメント、鑑賞といったアートをめぐる様々な関係者、そしてユーザーの声によって運営されるアートコレクティブ。作者や鑑賞者、批評家、キュレーターなど異なる「user(使い手)」という立場から、既存の芸術概念の問い直しに基づくネオ・コンセプチュアルな作品やアートプロジェクトを展開。主なプロジェクトや展覧会として、アースワークの先駆者である故 R.スミソンを「作者」として「架空に使用」し、作品を展開した「宮城でのアース・プロジェクト-Robert Smithson without Robert Smithson」(風の沢ミュージアム, 宮城, 2015)。過去と未来の事物を芸術資源として同等に使用する「未来芸術家列伝」。東京都八王子の住宅街に面した森で新たな公共圏=ミュージアムを構想、実践するべく同時開催されたジェネラル・ミュージアムによるコレクション展「コラージュ、カムフラージュ」+企画展「dis/cover」(2022)等。



cap.1=キリストと弟イスカリの並ぶ墓(新郷村)の写真に重ねた「ジェネラル・ミュージアム|墓」のプラン

【展示室0-2】三沢市ゆかりの生活資料×美術館コレクション：寄せては返すもの

三沢の生活資料や昭和～平成に発生した二つの津波による三沢市内での被害を伝える資料などを展示する。歴史の大波に揉まれ、埋もれた個別の出来事や記憶を「伝える力」そのものをアートとして紹介する。

紹介資料：

- 三沢市教育委員会所蔵の資料：神棚 ※小川原湖民俗博物館旧蔵
- 三沢市歴史民俗資料館所蔵の資料：野口貝塚出土の貝類、三陸地震津波の被害を伝えるモニュメント（模型）、三陸地震津波や東日本大震災の被害を伝えるパンフレット類
- 美術館コレクション：小坂圭二《小川原湖女神像（姉妹）》 彫刻作品



【展示室P】六ヶ所村ゆかりの生活資料×美術館コレクション：忘れたことを忘れないで

かつて豊かな漁場や馬の放牧地のあった六ヶ所村は、1960年代末の国家プロジェクト「新全国総合開発計画」をもとに様々な開発がなされ、現在では風力原子力といった日本のエネルギー開発の地として知られている。そんな六ヶ所村の変容を美術館の変容と連動させるべく、生活資料に美術館コレクションを交えて展示する。

紹介資料や作品：

- 六ヶ所村立郷土館所蔵の資料：役場看板、木馬のおもちゃ、馬のカンジキ、マッケ（堆肥をかき回す棒）、新全国総合開発計画資料（パンフレット類）
- 美術館コレクション：斎藤義重《あほんだらめ》 絵画作品



cap.2=斎藤義重《あほんだらめ》(1948)

【展示室Q】田附勝：刻み込む土地

今秋、六ヶ所村立郷土館で開催した田附勝写真展『刻み込む土地』を美術館の空間にあわせたインスタレーションとして作家自身が再構成。そこに六ヶ所村立郷土館所蔵の縄文土器片とそれらの梱包材として使用された発掘当時の新聞を被写体に撮影したシリーズ《KAKERA》新作を新たに額装して交え、展示する。

紹介作品や資料：

- 田附が村の開拓や開発に伴う離村を伝える石碑文や村の風景を撮影した写真 20 余点
- 田附により六ヶ所村で撮影された《KAKERA》4 点
- 田附セレクトによる六ヶ所村立郷土館所蔵の生活資料



cap.3=六ヶ所村立郷土館で展開した田附勝写真展『刻み込む土地』（2022）

田附 勝 たつき・まさる

1974 年富山県生まれ。1998 年から 2006 年にかけてデコトラとそのドライバーを撮影し『DECOTORA』（2007, リトルモア）を発表。2006 年頃から東北に通い、土地や人と交流しながら『東北』を発表（2011, リトルモア）。本作で 2012 年、第 37 回木村伊兵衛写真賞受賞。その後も東北に通い続け、釜石での震災後初の鹿猟を捉えた『その血はまだ赤いのか』（2011, SLANT）、鹿猟師たちの最後の猟の日々とその名残を追った『おわり。』（2014, SUPER BOOKS）、八戸の漁師や浜の暮らしに迫った『魚人』（2015, T&M Projects）等を発表。2012 年から撮りためた《KAKERA》をもとに『KAKERA』（2020, T&M Projects）を発表。見えるもの見えないものの「あいだ」を問うように現在まで撮影を続けている。



cap.4=安田講堂残し占拠排除 1969(昭和 44)年 1 月 19 日 東奥日報
(撮影：2022 年 5 月 18 日 青森県六ヶ所村) ©masaru tatsuki

【展示室M】小田香：ホモ・モビリタス

本事業内で制作された小田香の映像作品《ホモ・モビリタス》は、県南地域を走る「青い森鉄道」の車窓風景を撮影して作られた。そんな映像は見る者の記憶の壁を刺激し、人間の来し方行く末に思いをはせずにはいられない。そんな小田の映像作品を、県下を旅した蓑虫山人（1836～1900）の作品と併置し、過去と現在をつなぐ移動の感覚を展示することを試みる。

紹介作品：

- 小田香《ホモ・モビリタス》
- 弘前市立博物館所蔵の資料：蓑虫山人《鶴図》 掛軸

小田 香 おだ・かおり

イメージと音を介して「人の記憶のありか」「人間とは何か」を探求するフィルムメーカー/アーティスト。1987年大阪府生まれ。米国ホリズ大学教養学部映画コース修了。2016年映画監督タル・ベーラ指揮によるfilm.factory修了(第1期生)。2015年ボスニアの炭鉱を主題とした映画『鉱 ARAGANE』(2015)で山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部門特別賞受賞。2019年ユカタン半島の洞窟泉を撮影した映画『セノーテ』で2020年大島渚賞受賞、芸術選奨新人賞受賞。映画制作と並行して、カメラを向けた土地や人とのつながりを保つための絵画をはじめとした作品制作を行う。主な展覧会に「特集 小田香 光をうつして—映画と絵画」(まなびあテラス、フォーラム東根 山形 2021)、「第14回恵比寿映像祭:スペクタクル後 AFTER THE SPECTACLE」(東京都写真美術館 2022)等。
<https://www.fieldrain.net/>



cap.5=小田香《ホモ・モビリティス》(2022)映像スチル 撮影協力=青い森鉄道

【展示室L-J】蓑虫山人:「陸奥庵」の夢

事業の中で開催したオンライン勉強会「蓑虫山人とみる夢」においては、蓑虫山人の生涯や青森での活動について学んだほか事業参加アーティストや三沢ゆかりの劇作家・寺山修司を顕彰する記念館の学芸員らとともにミュージアム概念を再検討する内容が展開された。本コーナーでは勉強会の内容を踏まえて蓑虫山人が三沢の要人・廣澤安任らと県下で夢見たミュージアム「陸奥庵」を連想させる展示や彼の県下での旅の現代的な意義を旅日記である《写画》全頁の紹介を通じて行う。総じて蓑虫山人に由来する資料とその所有にまつわる「目線の低さ」「水平感覚」などをもとに、ありえたかもしれないミュージアムを、現行のミュージアム内部において提案する展示となる。

(協力) 青森県立郷土館、弘前市立博物館、弘前大学人文社会科学部

→オンライン勉強会「蓑虫山人とみる夢」要旨紹介(プリント配布)

→青森県立郷土館所蔵の資料:廣澤安任《書簡》

→三沢市先人記念館寄託資料:蓑虫山人《土偶図》

→弘前市立博物館所蔵の資料:蓑虫山人《たいまつ》掛軸、

蓑虫山人《陸奥全国古陶之図/陸奥全国神代石之図》六曲一双屏風

→個人蔵の資料:蓑虫山人《写画》

蓑虫山人と陸奥庵について

蓑虫山人は岐阜県出身。本名を土岐源吾。絵師、考古学者、造園家など職業多数。幕末から明治時代半ばにかけて、九州地方から北東北に至るまでを行脚し、生涯のほとんどを放浪者として過ごす。北東北は青森での滞在は10年近くに及び、1886年頃の滞在中、旧斗南藩士にして三沢の名士・広沢安任に語り聞かせたとされるのが「陸奥庵」構想です。蓑虫山人は全国を66に分け、各地の土器土偶をはじめとする考古遺物や珍品名品を陳列する66の場—「六十六庵」(*そのうちの一つが「陸奥庵」)—をつくる構想を温めていました。構想がどこまで実現したかは詳らかではないが、両者の熱意は安任による書画《陸奥庵》や、互いの手元に残る《土偶図》などからうかがい知ることができます。



cap.6=蓑虫山人『蓑虫山人写画』より 明治13~17年頃 画帖 所蔵:工藤禮子

画像のご提供

本リリースに掲載した cap.1 から 6 をデータでご提供いたします。

希望される画像、媒体名、御社名、ご担当者、ご連絡先をお書き添えの上、E-mail でご連絡ください。
(bijutsukan@pref.aomori.lg.jp)

(プレスイメージ貸し出し条件)

- 1 画像は、本展紹介以外の目的で使用しないでください。
- 2 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
- 3 作品画像は全図で使用してください。部分画像やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
- 4 画像を掲載される際には、本リリース内各画像下に記載されたクレジットをご記入ください。
- 5 掲載、放送の際には事前確認のため、ゲラ、掲載誌（紙）または映像のご提供をお願いいたします。
- 6 掲載誌（紙）は、広報担当あてに一部ご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

問合せ先

青森県立美術館

〒038-0021 青森市安田近野 185

TEL 017-783-3000 FAX 017-783-5244 MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

広報担当：長谷川 睦 学芸担当：奥脇嵩大